



パシフィックシステム株式会社

PACIFIC SYSTEMS
パシフィックシステム株式会社

パシフィックシステム株式会社 2024年度第2四半期決算説明資料

2024年11月12日



Pacific Systems
パシフィックシステム株式会社

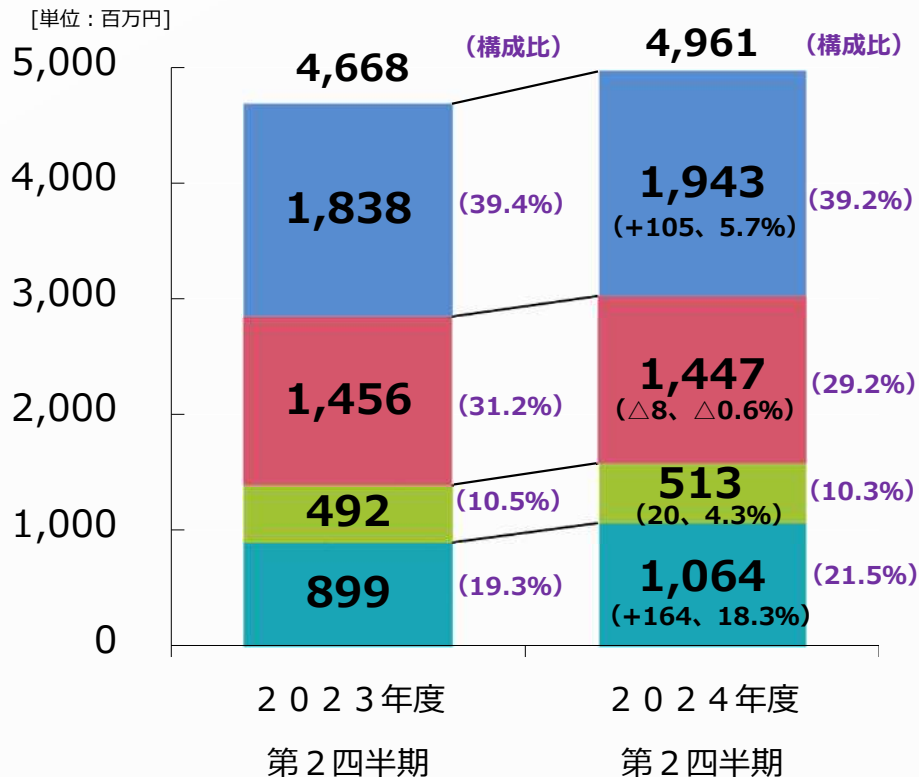
2024年度第2四半期 決算概況

決算年度 (単位：百万円)	2023年度 (第2四半期) (A)	2024年度 (第2四半期) (B)	前期差異 (B-A)	増減率
売上高	4,668	4,961	293	6.3%
売上総利益 (利益率)	1,250 (26.8%)	1,323 (26.7%)	72	5.8%
販売管理費	979	1,005	26	2.7%
営業利益 (利益率)	270 (5.8%)	317 (6.4%)	46	17.2%
経常利益 (利益率)	276 (5.9%)	328 (6.6%)	52	18.8%
親会社株主に帰属 する四半期純利益 (利益率)	179 (3.9%)	222 (4.5%)	42	23.8%

[売上高]
機器等販売、ソフトウェア
開発、システム運用・管理
等のセグメントで増加

[損益]
売上高の増加に伴い、各
利益が増加。

連結 事業4区分別売上高の前期比



※セグメント間の調整額（前期：△18百万円/△0.4%、今期：△7百万円/△0.1%）は除く

システム運用・管理等

システム運用支援において支援人員の増員、またデータセンター業務並びに保守サービスにおいて作業が増加したことにより増収

システム販売

生コン制御盤（PAT-ONE）や画像センシング事業で売上の増加があったものの、前年同期で進行していた医療事業や公共事業の大型プロジェクトが終了した反動で減収

ソフトウェア開発

新規のERPシステムの導入や基幹業務システムの受託開発並びに大規模プロジェクトの進行により増収

機器等販売

文教におけるパソコン等の受注増、並びに既存顧客からのサーバー・パソコン等の需要増により増収

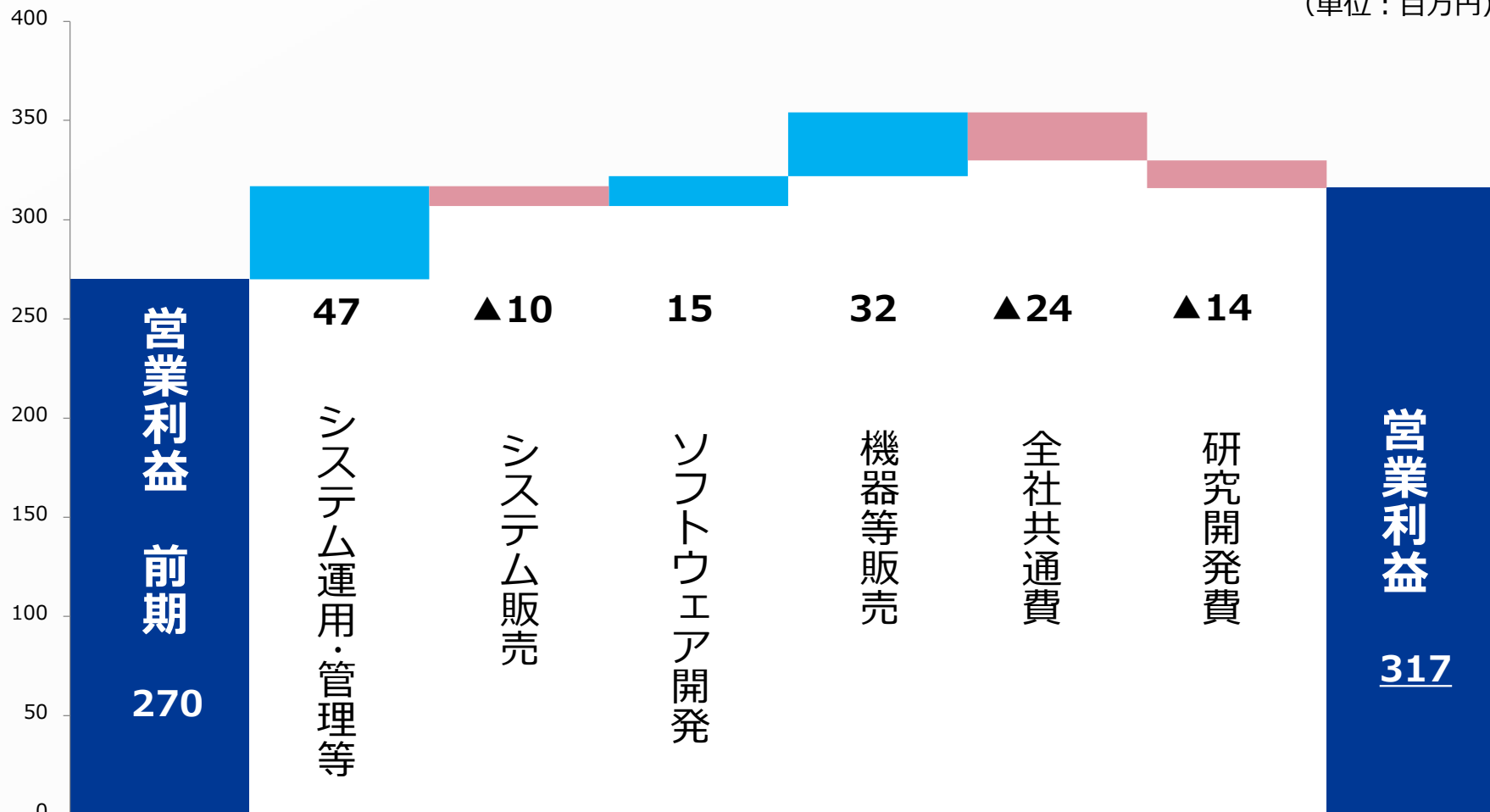
事業区分別のセグメント利益

(単位：百万円)

区 分	2023年度 第2四半期 セグメント利益 (A)	2024年度 第2四半期 セグメント利益 (B)	前期比 (B - A)	増減率
システム運用・管理等	546	594	47	8.7%
システム販売	198	188	△10	△5.3%
ソフトウェア開発	91	106	15	16.9%
機器等販売	69	102	32	46.8%
全社共通費 (販売費・一般管理費)	△635	△674	△38	6.1%
合 計	102	317	46	17.2%

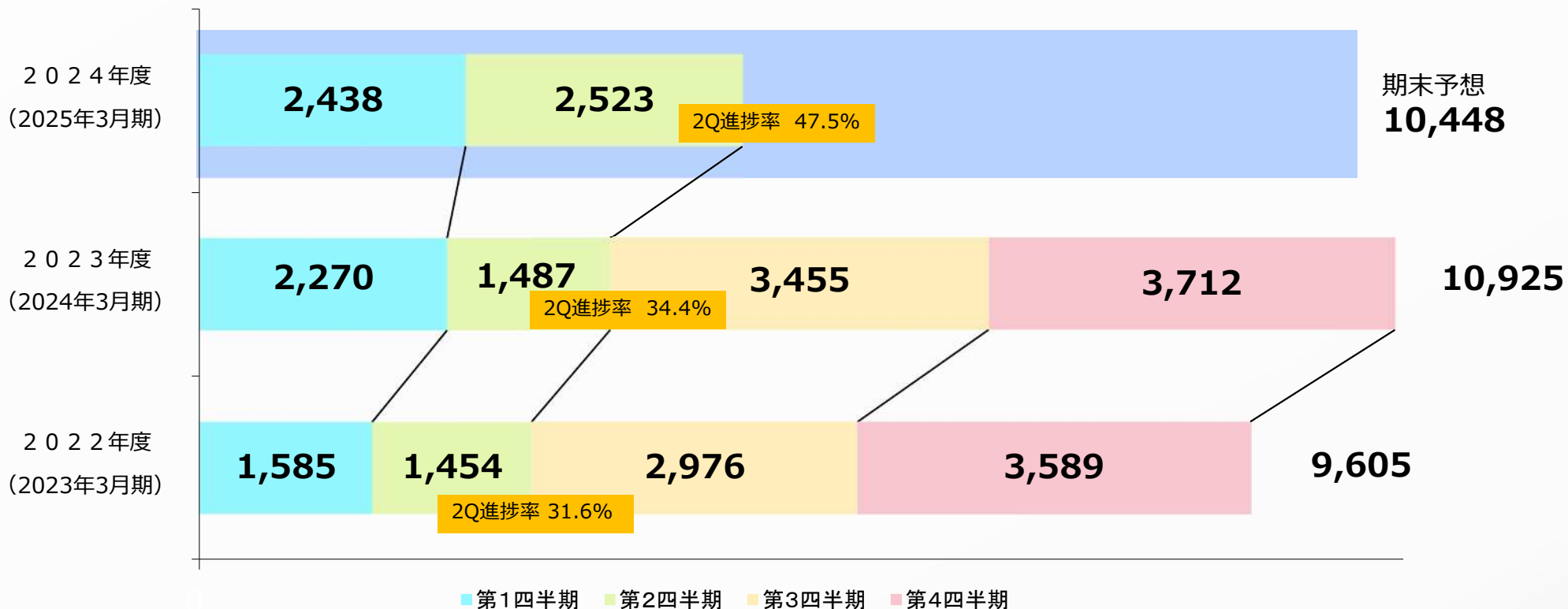
営業利益分析(前年同期比)

(単位：百万円)



連結 四半期ごとの売上高

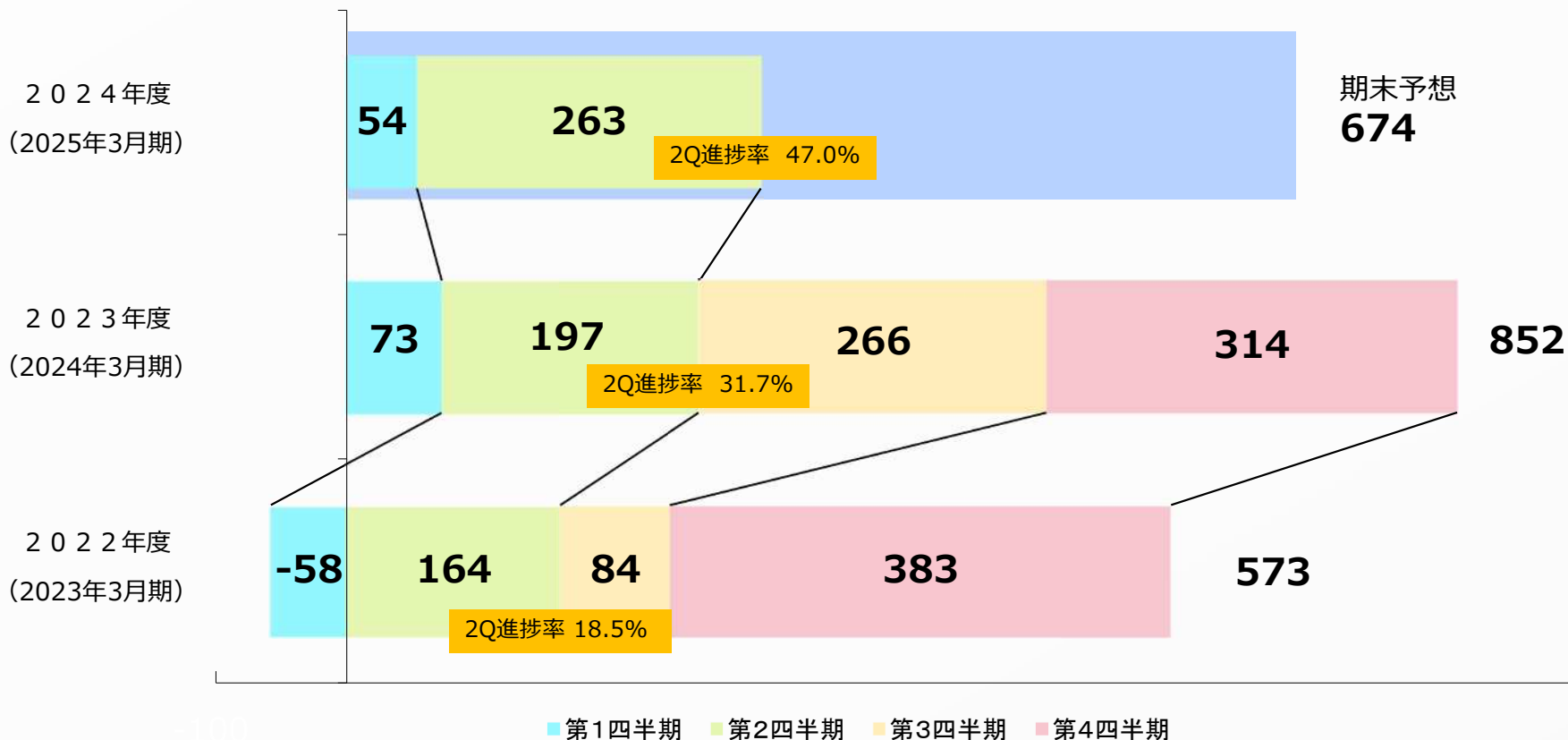
[単位：百万円]



通期業績予想に対する進捗

連結 四半期ごとの営業利益

[単位：百万円]

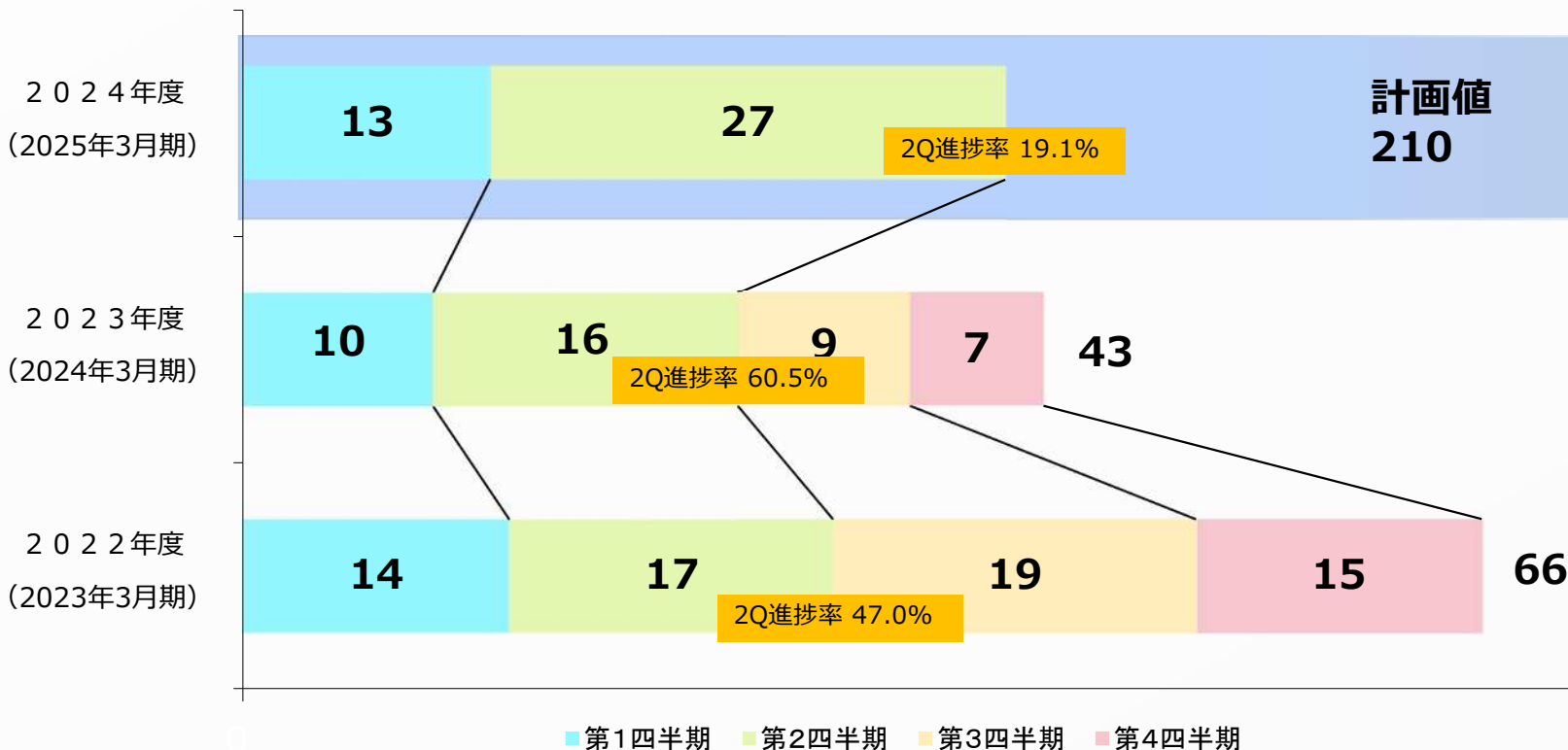


100

■ 第1四半期 ■ 第2四半期 ■ 第3四半期 ■ 第4四半期

連結 四半期ごとの研究開発費

[単位：百万円]



[当期研究開発テーマ]
AI、セキュリティ、画像センシング、パッケージ開発等

計画時に研究開発とした案件を精査した結果、一部を固定資産処理へ変更しております。当該資産11百万円は当期の研究開発費実績に含まれてません。

■ 第1四半期 ■ 第2四半期 ■ 第3四半期 ■ 第4四半期

連結 貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部				負債の部			
	2024年 3月期	2024年 9月期	増減		2024年 3月期	2024年 9月期	増減
流動資産	6,504	5,968	▲535	流動負債	2,779	2,156	▲623
固定資産	2,739	2,770	+30	固定負債	279	283	+4
資産合計	9,244	8,739	▲504	負債合計	3,059	2,439	▲619
				純資産の部			
				純資産合計	6,185	6,299	+114
				負債・ 純資産合計	9,244	8,739	▲504

[流動資産]
受取手形、売掛金及び
契約資産が減少

[固定資産]
建設仮勘定等の有形固
定資産が増加

[流動負債]
買掛金、未払法人税等、
賞与引当金の減少

[純資産]
親会社株主に帰属する当
期純利益を計上したこと
による増加

主な指標	2024年3月期	2024年9月期	増減
自己資本比率	66.9%	72.1%	+5.2p
一株当たり純資産	4,180円22銭	4,257円55銭	+77円33銭



トピックス



2024年10月23日に日本シーサート協議会へ加盟申請が承認され、『**PACIFIC CSIRT**』として加盟登録が完了しました

シーサートとは？

シーサート (**CSIRT: Computer Security Incident Response Team**) とは、コンピュータセキュリティにかかるインシデント（不測の事態）に対処するための組織の総称です。インシデント関連情報、脆弱性情報、攻撃予兆情報を常に収集、分析し、対応方針や手順の策定などの活動を行います(※)

日本シーサート協議会とは？

正式名称「一般社団法人日本シーサート協議会」のことで、シーサート間の緊密な連携を図り、シーサートにおける課題解決に貢献するための組織(※)



情報共有の促進:

他組織とのインシデント情報や対策ノウハウの共有



技術向上:

ワーキンググループ参加による、最新のサイバー脅威に対する技術向上



連携の強化:

セキュリティインシデント時に、他組織との連携が可能となる

情報共有
技術向上

PACIFIC CSIRT



情報セキュリティコンサルティング
(脆弱性診断、インシデント対応訓練)

情報インシデント対応と復旧



サイバー攻撃対策
(不正通信のブロック、ウイルス検知・駆除、Webフィルタリング)

ネットワークとセキュリティの最適化
(SASE:Secure Access Service Edge)

日本シーサート協議会に加盟する他社シーサートとの緊密な情報連携により、最新のサイバー攻撃情報や対応技術についての知識を深め、**セキュリティ態勢を一層強化し、お客様へさらなる安全かつ安心なサービスを提供します**



DXを推進する業務のデジタル化クラウド
生産性を高める全社プラットフォーム



優れた専門知識や技術保有を証明

- ・業務デザイナー（業務アプリデザイン・開発者）
- ・オーガナイザー（DX推進リーダー）
- ・エキスパート（DX実現スペシャリスト）



導入前

企業内各種文書
Notesデータベース

課題

- ・大量のデータベース
- ・情報検索しにくい
- ・社外からの情報共有が困難
- ・スマートデバイス未対応

SmartDBの導入から運用支援まで多彩なメニューで対応

- ◆Notes移行サービス
現状調査、及び、PSC Notes-SmartDB Converter
による移行
- ◆バインダ開発
SmartDBの高度な機能をフルに活かした高難易度のバインダ開発
- ◆SmartDB運用支援サービス
実績あるノウハウで運用支援

導入後

SmartDB
WEBデータベース
ワークフロー

Microsoft
365

InsuiteX
ポータルサイト

いつでもどこでも
スマートなコミュニケーション



<免責事項>

本開示資料に記載されている将来の計画等に関する内容につきましては、当社が本資料の発表日現在において入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づき判断した予想であり、リスクや不確定要素を含んでいます。

従いまして、記載されている将来の計画数値、施策の実現を当社として確約あるいは保証するものではありません。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。